

昭和四十四年十一月招集
昭和四十四年十二月招集

千葉県館山市議会会議録

館山市議会

第四回館山市議會臨時會會議錄

昭和四十四年十一月招集

第四回館山市議會臨時會會議錄目次

日	時	三
場	所	三
出席議員		三
欠席議員		四
出席説明員		四
出席事務局職員		五
議事日程		五
開會		六
出席説明員の報告		六
議案の配付		六
會議錄署名員の指名		七
会期の決定		七
提案理由の説明		七

議案の上程（議案第六十六号）

議案の内容説明

質疑応答

採決

議案の上程（議案第六十七号）

議案の内容説明

質疑応答

採決

議案の上程（議案第六十八号）

議案の内容説明

採決

閉会

本日の会議に付した事件

八

九

〇

〇

一

一

三

四

五

五

六

六

七

第四回館山市議会臨時会会議録

昭和四十四年十一月招集

一、昭和四十四年十一月十九日（水曜日）午後二時

二、館山市議会本会議場

三、出席議員 二十二名

一番 吉田 勇治 郎

四番 伊 賀 多 朗

六番 磯 辺 博

八番 黒 川 正

一〇番 西 村 真 次

一五番 石 井 正

一七番 江 田 徳 太 郎

二〇番 中 村 省 吾

二四番 田 中 祿 郎

二七番 安 沢 徳 順

三番 嶋 田 石 蔵

五番 藤 田 益 治

七番 白 熊 盛 太 郎

九番 三 幣 勇

一四番 遠 山 ヨ ネ 子

一六番 五十 嵐 昇

一九番 島 野 茂 樹 郎

二二番 小 沢 恵 太 郎

二六番 秋 山 六 三 郎

二八番 望 月 照 正

二九番 鈴木市蔵

三〇番 山口康

一、欠席議員 六名

二番 石井輝久

一番 菊井敏博

一二番 小柴孝

八番 安西益男

二三番 飯田義男

二五番 田村源治郎

一、出席説明員

市長

本間

議

助役

昌山

佐

収入役

高木

哲三

秘書課長

太田

博雄

人事課長

小沢

正治

庶務課長

小倉

澄男

財政課長

長谷川

広治

水産課長

谷貝

茂生

建築課長

池田

春雄

保健衛生課長

綱島

憲治

一、出席事務局職員

事務局長

高梨

清一

一、議事日程

昭和四十四年十一月十九日午後二時開議

事務局長補佐	高尾	豊
書記	兵藤	恭一
書記	錦織	睦子
書記	渡辺	弘
書記	木高	松雄
日程第一	会議録署名員の指名	
日程第二	会期の決定	
日程第三	議案第六十六号 館山市営漁民住宅新築工事請負契約の締結について	
日程第四	議案第六十七号 損害賠償の額を定めることについて	
日程第五	議案第六十八号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算（第四号）	

開

会

午後二時二分 開議

○議長（西村真次君）

本日の出席議員数二十一名、これより第四回市議会臨時会を開会いたします。

出席説明員の報告

○議長（西村真次君） 本臨時会の議案審査のため、地方自治法第二百一条の規定による出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木収入役、太田課長、小倉課長、長谷川課長、池田課長、谷貝課長、小沢課長、綱島課長、以上の者が出席する旨の報告がありました。

議案の配付

○議長（西村真次君） 議案を配付いたします。議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

会議録署名員の指名

○議長（西村真次君） 日程第一、会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に六番議員磯辺博君、二六番議員秋山六三郎君以上両君を指名いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

会 期 の 決 定

○ 議長 (西村真次君) 日程第二、会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は本日一日ということであり、おはかりいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて会期は一日と決定されました。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

提 案 理 由 の 説 明

○ 議長 (西村真次君) これより本臨時会の案件につき市長の説明を求めます。本間市長。

(市長本間謙君登壇)

○ 市長 (本間謙君) 提案理由につきまして御説明申し上げます。

本日、急契第四回臨時市議会を招集いたし、御審議わずらわします案件は三件ほどであります。

まず、かねてより懸案でありました館山市営漁民住宅新築工事請負契約の締結についてであります。これは指名競争入札の方法をもつて、館山市川名七百十三番地荒井建設株式会社と請負金額四千二百三十五万円をもつて請負契約を締結しようとするもので、法及び条例の規定するところにより市議会の議決をお願いいたす次第であります。明年三月

工事完了のあかつきには、鉄筋コンクリート四階建二棟三十二室で、一室六畳、四畳、食堂、台所、ふろ場、トイレの完備された近代的な住宅となるわけでありまして、漁民後継者の地元への定着化、世帯分化の傾向からの住宅難の緩和をはかり、漁業振興上から若手労働力の確保がはかられるわけであります。

次に損害賠償の額を定めることについてであります。これは本市所有自動車が予防接種業務におもむく途中、市内安布里地先の国道上で交通事故を起こしましたが、これが被害者との間に示談が整いましたので、損害賠償の額を定めることについて法の規定するところにより市議会の議決をお願い申し上げ、合わせて前述の損害賠償に伴う関係予算の補正をお願いする次第であります。以上、簡単な御説明に尽きるわけですが、いずれの案件も急施を要するものであります。詳細につきましては、各課長等をして説明させますので、慎重なる御審議をたまわれますようお願い申し上げます。一言提案理由の説明といたします。以上でございます。

○ 議長 (西村真次君) 市長の説明を終わります。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第三、議案第六十六号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十六号 館山市営漁民住宅新築工事請負契約の締結について

議案の内容説明

○議長（西村真次君） 説明を求めます。

○庶務課長（小倉澄男君） 議案第六十六号につきまして御説明申し上げます。

本件は条例第二条の規定にありますとおり、三千万以上の工事でございますので、議会の御同意をお願いする次第でございますが、これにつきまして、市内の五業者、株式会社石井工務店、渡辺建設株式会社、有有限会社計工務店、富士土建株式会社、荒井建設株式会社、五業者につきまして十分なる調査を行ないまして、その経営指数それから年間の工事を施行いたしました実績等、さらにその会社の内容等を審査いたしました結果、この五社を指名いたしました次第であります。

それによりまして、去る十一月七日入札を行ないました結果、ただいまここに記されておりますとおり、荒井建設株式会社が四千二百三十五万円をもつて落札いたしましたので、こゝに御審議をお願いする次第であります。

工期はここに書いてありますように、四十五年三月三十一日一ぱいということであります。なお、関連いたしますので、つけ加えて御説明いたしますが、ただいまの市営漁民住宅は船形地先の埋め立て地に建設するのでありまして、延坪数一、四九一・五二ヘー約四百五十坪であります。これは四階建の二棟になつておりまして、一棟に一六戸、計三十二戸の二DK、四畳と六畳に台所という内容でございます。以上、はなはだ簡単ではございますが、これによりまして御議決いただきますれば、直ちに本契約に基づいて本契約を締結いたしていきたいという考えでございます。よろしく願います。

質 疑 応 答

○ 二九番 (鈴木市蔵君) ちよつと伺いますが、三十二室のうち、一室の広さをちよつと伺つてみたいと思います。
六畳一間とか二間とか。

○ 建築課長 (池田春雄君) 二DKでありまして、四畳半、六畳それに台所で食事の取れるぐらいの大きさの台所です。すから、一間半の七尺ぐらいですが、その寸法は忘れましたが、それからふる場の場所、それから便所、兼用便所というわけです。それにバルコニーが両側にあります。以上です。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) そうすると全部についておりますか、全部の室に。

○ 建築課長 (池田春雄君) 今のは、一戸についてでありまして、三十二戸全部であります。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) わかりました。けつこうです。

○ 議長 (西村真次君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第四、議案第六十七号を議題といたします。

(書記明読)

議案第六十七号 損害賠償の額を定めることについて

議案の内容説明

○ 人事課長 (小沢正治君) 議案第六十七号につきまして御説明申し上げます。

本件事故は、去る七月三十一日のお昼頃でございますが、保健衛生課の住民に対します予防接種業務の従事職員の移動に際しまして、館野小学校で従事しておりました者が、次が午後船形地区へ移るために職員が車を運転しまして、その従事員を役所まで送る途中でございますが、その日は西寄りの風が大体一〇数メートル、三メートル乃至五メートルという風が吹いておりまして、こちらから参りますと、安布里のせきのちよつと先に川崎商店という商店がございますが、あの前でございます。あそこを役所に向つて進行中、非常に見通しがよい場所でございますして、前方に自分のほうに向つて自転車がかかるのを確認されたそうでございますが、その自転車の御婦人が前とうしろにかごをつけてまして、

買ったものを一ぱいのせまして、片手ですいかをかかえて片手運転でやつてきたということでございます。一応ちよつと氣にとめたそうでございますが、一応スピードを落さずに接近した。そうすると、非常に接近してから急に風の關係もあつたようでございますが、ふらふらと車のほうに入つてきた。それをかわす余地もほとんどできずにセンターラインの内側でわずかに接触した。接触して倒れたというよりも倒れかかつて通りかかつた車が接触したという形で、あつてハンドルの切つてガードレールに接してとまつたというのが警察の調書からも出ておる事故の概要でございます。

しかしながら、ここに出ておりますように、御婦人は谷貝千代子さんと申しますが、その方は自転車でひつくりかえつて頭を打つたわけでございます。その關係で治療が若干長びきまして、伊賀病院に四十四年の七月三十一日から九月十三日までの四十五日間入院いたしましたして、すっかりこれで異常がないという診断に基づきまして、退院されたわけでございます。その後頭を打つた關係で一応現在まで期間が長びいたわけでありますが、その後様子を見て参つたわけでございますが、異常が見られないということで、示談の運びとなつたわけでありまして、三十万四千七百六十八円の内訳を申し上げますと、四十五日間入院中の診療費が十六万六千六百七十二円で、その間に二十三日間付き添い看護に當つた關係がございしますので、その看護料が受け付け手数料、紹介手数料含めまして四万三千五百九十六円、合わせまして治療費が二十一万二千六十八円でございます。このほかに休業補償といたしまして、農家の家事専従者でございますので、一日千五百円で四十五日分四万九千五百円、それから慰謝料といたしまして、一日千円の四十五日で四万五千元、合計三十万四千七百六十八円ということで、議会の議決を得られ次第お払いますということと示談が成立いたしましたわけでございます。以上、大体の御説明でございますが、ぜひこれで御議決いただきまして、至急に支払いたしたいと考えておる次第でございます。

質 疑 応 答

○ 二四番 (田中祿郎君) ちよつと伺いますが、この御婦人が入院していらして十六万六千円というような費用がかつておるようでございますが、これはお医者さんのほうには示談が成立してからお払いするんですか、それとも個人にたてかえさしておいてお払いするものですか。その点ちよつとお伺いしたいと思います。

○ 人事課長 (小沢正治君) これは病院が伊賀先生でございますので、まだお払いしておられませんで、議決をいただき次第至急にお払いしたいというふうに考えております。

○ 二四番 (田中祿郎君) そうしますと、普通事故を起こしますと、大体十日間とかその辺でもつて医者にかかつた方が、被害者のほうから出しているわけでございますが、伊賀先生ですから最後にお払いくることになるかと思います。もしこれが東京あたりでやつた場合ですね。東京ではちゃんと払わなければならないと思うわけですよ。その場合に緊急の市会を開いて、これを市会の承認を得てお払いくるものか、それともまた内ばらいで払つておいて、最後の示談がついてから全部お払いくるものか、そのところをお伺いしたいと思います。

○ 人事課長 (小沢正治君) ごもつともな御意見でございます。私も常にそれで悩んでおるわけでございますが、当然市が賠償を払うといひましても予算が先でございます。予算の計上がございませ以上執行もできないわけでございます。一面、予算が計上されておりますも、損害賠償の額を定める議決をいただきませんと支払いができないというギヤツプがあるわけでございます。従いまして、このような事故の場合、市長に損害賠償額の決定の権限がないということは、非常に一つの障壁になっております。そういう関係で今までの取り扱いをいたしました現実の問題といひましては、何らかの方策で市費以外の面で現金を工面いたしましたして、暫定的にお支払いするというような形を取つてき

ております。

(一四)

○ 二四番 (田中祿郎君) そういたしますと、市費以外のことでもつて工面するということになりますと、どうもそれがどうか私は存じませんが、そこまでお伺いすることはないんですが、これは一体自治体というのは、損害賠償、交通事故が非常に多い世の中、交通戦争とまで言われておりますが、そういうとき、やはりある一定の予算化をしておいて、これで払うことができるものですか、できないものですか。それを一つお伺いしたいと思います。

○ 人事課長 (小沢正治君) これはあくまでも権限が額の決定は議決を経なければなりませんので、議決を経ない限り、具体的な損害賠償の額の決定にはならないわけでございます。従いまして、当然予算だけ計上しても支出はできないという形がからんでくるわけでございまして、やはりこういう時代になつて参りますと、特に交通事故に対する損害賠償の額の決定について議決権を何らかの措置で市長に専決してもよろしいとか、そういう形を取つておいていただきますと、予算だけ計上しても支出はできない。こういうことになろうかと思ひます。

○ 二四番 (田中祿郎君) 了解しました。

○ 議長 (西村真次君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○議長（西村真次君） 日程第五、議案第六十八号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第六十八号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算（第四号）

議案の内容説明

○財政課長（長谷川広治君） 六十八号議案の第四号一般会計補正予算について御説明を申し上げます。

第四号の補正予算はただいま御決議をいただきました損害賠償に関連をいたします追加でございます。

第一条にお示しをいたしましたとおり、今回は三十万五千円を追加いたしまして、それぞれ歳入歳出の総額を十四億千八百九十八万五千円といたしたい予定でございます。内容は損害賠償の関連でございますので、保健課長より歳入歳出とも御説明を申し上げますので、よろしく願ひいたします。

○保健衛生課長（棚島憲治君） 議案の一番最後のページをお開きいただきたいと思います。今回は二目予防費にお

きまして、三十万五千円の追加でございますが、これは先ほど来御説明申し上げました私どもの課員の事故によります損害賠償の金額でございます。

それから、歳入でございますけれども、これはそれぞれ自動車損害賠償責任保険並びに共済よりのてん補金によります同額でございます。

当面の責任者といまして、たいへん申しわけなく思っております。以上。

○議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

閉 会

議長 (西村真次君) 本臨時会に付議されました案件全部を議いたしました。よつて第四回臨時会を閉会いたします。

午後二時二十九分 閉 会

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名員の指名

一、会期の決定

一、議案第六十六号乃至議案第六十八号

地方自治法第二百三十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

議員

議員

西村真次
秋山三郎
磯邊博

